



教区目標「福音宣教する教会づくり」

解説 シリーズ ②

鹿兒島教区 司教 中野裕明

福音宣教者イエスに学ぶ

教区の皆さま、お元気で
しょうか。

今回は福音宣教者イエス
についてお話しします。

「福音宣教」と聞くと、
「私たちにそんなことは
到底できない」としり込み
をします。しかしご安心く
ださい。イエスさまご自身
が福音宣教者だったので
す。従ってイエスさまのこ
の世での言動を見ればその
内実が分かります。

・イエスの宣教の始め

イエスは、30歳になられ
たころから宣教活動を始め

ています。まず洗礼者ヨハ
ネから洗礼を受けた時の様
子は次の通りです。

「イエスは洗礼を受ける
と、すぐ水の中から上がられ
た。そのとき、天がイエスに
向かって開いた。イエスは、
神の霊が鳩のように御自分の
上に降ってくるのを御覧にな
った。そのとき、「これはわ
たしの愛する子、わたしの心
に適う者」と言う声が、天か
ら聞こえた。」(マタイ3・
16、17)

この情景はとても印象深
いものです。30歳になるま
で、イエスはヨゼフさまと
大工の仕事をしていたよう
です(マルコ6・3参

司祭叙階式のお知らせ

日時 4月12日(日)16時
場所 鹿兒島カテドラル・ザビエ
ル教会
司式 中野裕明司教
受階者 久山元太郎助祭(洗礼名
福音史家ヨハネ)

略歴 1969年6月16日生まれ。56
歳。神奈川県出身。栄光学園中高等
学校、上智大学卒業。
2018年夏鹿兒島教区神
学生に。その後はフィス
リピン・サンカルロス
神学院で学び、2025年
5月助祭に叙階され、
川内教会で司祭への準
備をしていた。



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099(226)5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



最初は、聖霊がその人の
上に降る時、もう一回は、
天の父から「わたしの愛す
る子である」との認証を得
た時です。

話はそれますが、最近
「自己肯定感が低い」とか
「自己承認欲求が高い」と
いう表現をよく聞きます。

対して主の活動の源は何ら
かの自己認識ではなく天の
父からの承認でした。福音
宣教者の原点はここにある
と思います。

故教皇フランシスコのモ
ットーは「愛した、そして
選んだ」でした。選んでは
愛したのではなく、愛す
る事が先にあります。私た
ちの社会の在り方とは逆で
す。

・「神の国」の宣布こそ
福音宣教の眼目

神の国は地上の国とは反
対です。地上の国は人間が
支配しますが、神の国は神
が支配なさる国のことです。
ローマの総督ピラトの
「お前がユダヤ人の王なの
か」との尋問に対し、イエ
スは次のようにに答えま
す。

「わたしの国は、この世
には属していない。もし、
わたしの国がこの世に属し
ていれば、わたしがユダヤ
人に引き渡されたいよう
に、部下が戦ったことだろ
う。しかし、実際、わたし
の国はこの世には属してい
ない。」(ヨハネ18・36)

奉献生活は信仰の証

中野司教が共にささげるミサで説教

2月2日の「主の奉献の
祝日」を前にした1月31日
(土)午後、鹿兒島カテド
ラル・ザビエル教会では
「奉献生活者と共にささげ
るミサ」がささげられた。

このミサは毎年、教区で
働く奉献生活者たちが集ま
り召命の恵みに感謝し、若
者たちに司祭、修道者を目
指す召命の恵みを求めるも
の。鹿兒島教区においては
教区修道女連盟が主催して

永年続けられている。
この日のミサを司式した
のは中野裕明司教と教区修
道女連盟顧問司祭の小隈憲
士神父(ザビエル教会主
任)、これに教区助祭の久
山元太郎さんが奉仕した。

午後2時から始められた
このミサに参列したのは25
人ほどの県本土地区で奉仕
する修道女と近隣の信徒10
人余り。
久山助祭によるルカ福音

神の国は地上の国とは反
対です。地上の国は人間が
支配しますが、神の国は神
が支配なさる国のことです。
ローマの総督ピラトの
「お前がユダヤ人の王なの
か」との尋問に対し、イエ
スは次のようにに答えま
す。

「わたしの国は、この世
には属していない。もし、
わたしの国がこの世に属し
ていれば、わたしがユダヤ
人に引き渡されたいよう
に、部下が戦ったことだろ
う。しかし、実際、わたし
の国はこの世には属してい
ない。」(ヨハネ18・36)

・神の国へ招かれている
人々

すべての人が神の国に招
かれていますが、とりわけ
心の貧しい人々、悲しむ
人々、柔和な人々、義に飢
え渇く人々、憐み深い
人々、心の清い人々、平和
を実現する人々、義のため
に迫害される人々、イエス
のためにのしられ、迫害
されている人々、身に覚え
のないことであらゆる悪口
を浴びせられる人々がそう
です。(マタイ5・1、11)

書朗読後に説教した中野
司教は「希望の巡礼者をテ
ーマに掲げた通常聖年が終
了した。救いを求めている

私たちが、救いの希望を
どこに置いているのだろ
う。信仰を持たない人たち
は科学と政治に希望を置い
ている。でも私たち信者は
神に希望を置かなくてはな
らない。今日の福音書のシ
メオンの言葉はこの世への
逆らいのしるしでもある。
世俗と一線を画す奉献生活
を送っておられる皆さん
は、今の、そして今までの
生き方を社会に伝えてほし
い。神のもとで憩うまで安
らぎを得ないという証とな
ってほしい。それが司祭、
修道者の召命の獲得にも繫
がっていくのだと思う」と

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)



参照

・人々の自由な判断を促
すための「たとえ話」

「イエスは、人々の聞く
力に応じて、このように多
くのたとえで御言葉を語ら
れた。」(マルコ4・33)

イエスの語るたとえ話の代
表的なものは「種を蒔く
人」(マルコ4・13、20)

ある人が種蒔きに出た。
ある種は道端に、ある種は
石だらけに土地に、ある種
は茨の中に、ある種は良い
土地にそれぞれ落ちた。そ
の結果、それらの種の育ち
具合に大差が出たという話
です。この場合、蒔かれる
種は神のことば、蒔く人は
宣教師、結果が異なるのは
み言葉を聞く人の心の状態
よるといのがイエスの解
説です。

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

この話は、福音宣教に励
む、弟子たちの経験が下地
になっていきます。懸命に福
音宣教に従事しても、その
実りはわずかなものです。
そのような現実に対して、
イエスが慰めの言葉をかけ
ていると理解することがで
きます。(マタイ5・1、11)

福音宣教の総決算、それは死と復活による贖いの業

イエスのご変容のとき、
雲が現れて彼らを覆い、
「これはわたしの子。選
ばれた者、これに聞け」と
言う声が雲の中から聞こえ
た。」(ルカ9・35)とあ
ります。

このご変容の前にイエス
は自分の死と復活の予告し
ますが、それに続けて次の
ように招きます。

「それから、イエスは皆
に言われた。『わたしにつ
いて来たい者は、自分を捨て、
日々、自分の十字架を背負
って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたい
と思う者は、それを失う
が、わたしのために命を失
う者は、それを救うのであ
る。』」(ルカ9・23、
24)

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

イエスの宣教の始めにあ
った天の父からの認証が再
び、ご変容の時にありまし
た。しかし、前者と異なるの
は、受難を前にしたイエス
は、弟子たちを誘っているこ
とと、天からの声が、「彼に
聞け」とイエスの誘いを後押
ししている点です。

2月の司祭評議会

2月10日(火)午後、教
区本部を会場にインターネ
ットも利用した「司祭評議
会」が開催された。

14時から始められた評議
会では、来年3月の鹿兒島
知牧区誕生(1927年)
の記念の仕方について意見
が出された。

14時から始められた評議
会では、来年3月の鹿兒島
知牧区誕生(1927年)
の記念の仕方について意見
が出された。

聖年にバチカンとアツシジを訪ねて②

ザビエル教会 田ノ上 淑子

サン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ聖堂（城壁外の聖パウロ聖堂）「聖なる扉」巡礼

城壁から約2キロ、聖パウロが殉教し埋葬された場所にある、キリスト教を認めた最初のローマ皇帝コンスタンティヌス1世の命で建立されたという大聖堂。正面の聖書と剣を持った聖パウロの威厳ある彫像に迎えられる。

右端の聖なる扉は歴代の教皇のモザイク肖像画が刻まれているという。縦長の青銅の扉をくぐり大聖堂の中に。1823年に屋根職人の過失で大聖堂は全焼したが、ゴシック式の祭壇天蓋や凱旋アーチは消失を免れた。「簡素で祈りの空間」と表されるけれど、祭壇へと続く大理石の列柱、天井装飾、35点のフレスコ



サン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ聖堂

11月12日（水）
早朝、バチカンのサン・ピエトロ広場に向かう。今日も雲一つない晴天。広場の入り口のセキユリテイチェックに到着するまでの30分前には長い行列の中にいた。
十字架を抱えた日本の巡礼団の先頭の2人の、ずっと後に続いてロザリオを唱えながら広場の入り口に向かっている。進むにつれて人々の言葉が混在する。たぶん、それぞれの

画は聖パウロの生涯が描かれ、その見事に佇む。聖人の回心と凄まじい布教活動、壮絶な生涯、数々の手紙・書簡、殉教、全ての神の御計画の中にあつたのか。中央祭壇の下に聖パウロが眠っているという。聖人が身近に現実味を帯びて迫る。
大聖堂の聖なる扉をくぐる目的を強行軍の中で達成できた。大聖堂の豪華絢爛・荘厳さに比して重厚ではあるが、どの聖なる扉も謙虚にひっそりと開いている印象があつた。そうだからこそ大いなるメッセージ、意味を孕んでいるのだ。「免償」の恵みを頂いた。25年に1度開かれた聖なる扉をくぐった現実の中に佇んでいる。

☆
巡礼計画に、教皇謁見が企画されていた。
11月12日（水）
早朝、バチカンのサン・ピエトロ広場に向かう。今日も雲一つない晴天。広場の入り口のセキユリテイチェックに到着するまでの30分前には長い行列の中にいた。
十字架を抱えた日本の巡礼団の先頭の2人の、ずっと後に続いてロザリオを唱えながら広場の入り口に向かっている。進むにつれて人々の言葉が混在する。たぶん、それぞれの



サン・ピエトロ広場

国の言語のロザリオの祈りがふと、「バベルの塔」が浮かぶ。全く関係のないに、周りでざわざわざわと聞こえる異国の言葉に神の御業ではないかと錯覚する。そうして、その中にある自分が不思議。誘われるようにここに来た。
広場は世界中からやってきた人、人、人で埋め尽くされ、それぞれ予約されていた場所での時を待っている。
フランススコ教皇が来日された折の長崎が蘇った。あの時も、こうして群衆の



城壁外の聖パウロ聖堂の絵画の前で

後日じっくり味読することにしよう。
参列している国の名前が呼ばれているもよう、自国の名前に歓声や拍手が湧き上がる。「ジャパーン」。みんな拍手して両腕を高く上げる、日本からの巡礼団はここにいます、と。遠くの教皇はこちらを見て祝福をくださっている、きつと。さまざまな国の言語での共同祈願、賛美、祈りが捧げられ、教皇祝福の言葉を話されているのか、大きな画面にその模様を映じている。言葉はわからないけれど、それでいいのだという思いでその場にいた。
(続く)

CHA NUOI

Chúng ta bước vào tháng 3, Giáo Hội mời gọi con cái mình nhìn ngắm và bắt chước Thánh Giuse, vị Thánh Bỏ mạng của Giáo Hội Việt Nam, hay còn được gọi với danh xưng rất thân thương “Cha nuôi Đấng Cứu Thế”.

Khi chiêm ngắm Thánh Giuse, tôi luôn bị đánh động bởi sự thánh lặng của Ngài. Tin Mừng không ghi lại một lời nào của Thánh Giuse, nhưng cả cuộc đời Ngài lại là một lời đáp trả trọn vẹn cho thánh ý Thiên Chúa. Ngài chỉ được nghe tiếng Chúa trong các giấc chiêm bao, chứ không được Thiên Thần hiện ra truyền tin giống như trường hợp của Mẹ Maria hay ông Giacaria... Thế mà Ngài hoàn toàn tin tưởng và mau mắn làm theo : đón Mẹ Maria về làm vợ khi biết Mẹ đã mang thai do quyền năng Thánh Thần, chối dậy ngay trong đêm để đưa vợ con vượt biên sang Ai cập lánh nạn... rồi khi tạm yên ổn lại bỗng bề nhau về quê nhà...

Ngài không phải là cha ruột của Đức Giêsu, nhưng đã sống trọn vẹn ơn gọi làm cha – một người “Cha Nuôi” với tình yêu, trách nhiệm và sự hy sinh sâu xa. Ngài âm thầm bảo vệ gia đình nhỏ bé của mình, sẵn sàng ra đi, chấp nhận bấp bênh nơi đất khách, lao động vất vả để nuôi sống những người Ngài yêu thương. Một tình yêu không ồn ào, không chiếm hữu, nhưng bền bỉ và trung tín đến cùng, nhờ tin tưởng vào tình yêu của Thiên Chúa.

Có rất nhiều bạn trẻ Công giáo chúng ta đang sinh sống và làm việc tại Nhật bản, đặc biệt là tại Kagoshima, nơi nhịp sống nhanh, áp lực lớn trong công việc và cả trong các mối tương quan, chắc chắn có nhiều lúc các bạn cảm thấy lạc lõng, cô đơn, mất phương hướng... Hình ảnh Thánh Giuse – người lao động âm thầm, người cha sống đức tin giữa đời thường – cũng đã từng sống nơi đất khách quê người, rất gần với hoàn cảnh của các bạn hôm nay. Đặc biệt, với những bạn đang chuẩn bị bước vào đời sống hôn nhân gia đình Công giáo, Thánh Giuse là mẫu gương quý giá của một người chồng biết lắng nghe tiếng Chúa, biết yêu thương và tôn trọng người bạn đời bằng hành động cụ thể mỗi ngày; là hình ảnh của một người cha biết hiện diện, bảo vệ và dẫn dắt gia đình bằng chính đời sống gương mẫu của mình.

Trong một xã hội đề cao cảm xúc và tự do cá nhân, Thánh Giuse mời gọi chúng ta hiểu rằng: hôn nhân không chỉ là yêu nhau khi thuận lợi, mà là cùng nhau ở lại, cùng nhau vất vả giá đời thường, trong tin tưởng và phó thác. Ước mong rằng, khi hướng về Thánh Giuse – người “Cha Nuôi” âm thầm mà vĩ đại – các bạn trẻ sẽ tìm được cho mình sự nâng đỡ thiêng liêng, để can đảm xây dựng gia đình tương lai trên nền tảng đức tin, tình yêu và lòng trung thành với Thiên Chúa.

Sr M.Goretta Hoàng Oanh.

今年の司祭大会

教区で働く司祭が一堂に会する「司祭大会」が1月26日（月）と27日（火）に鹿兒島市であった。永年続けられているこの催しだが、ここ数年は期間を短縮して開催されている。
1日目は司祭団の交流会のみで、鹿兒島市内のホテルが利用された。2日目は会議（コンベンツ）となつたが、旧司教館（鹿兒島



（写真は、旧司教館で永年神父を囲んで）

愛の献金にご協力を！

＝四旬節中＝

教皇は毎年、四旬節に向けてメッセージを発表し、キリストを信じるすべての人が四旬節の精神をよく理解して、回心と愛のわざに励むよう呼びかけます。この呼びかけにこたえて日本のカトリック教会は、虐げられ、差別され、見捨てられ、いのちの危機にさらされている人たちの共感を大切にしよう一人ひとりに訴えるときにも、四旬節中の愛の献金を奨励しています。
この「愛の献金」は、カリタスジャパンを通して海外諸国と日本各地に送られ、難民や孤児、そして、貧困、失業、飢餓などに苦しむ多くの人のいのちを守るために、また彼らの自立を助けるために使われます。

市唐湊2丁目10-1）と隣接するレデンブートル宣教師修道院を会場とした。これは旧司教館の現状を把握し、今後の活用方法を検討する狙い。2019年からレデンブートル宣教師修道女会敷地内で活動を続け、旧司教館の庭の管理等にも尽力してくれている「ポラーノ・ポラーリ」（「障害や困難を力に変えて幸福をつくろう」を合言葉に、心の健康を育み、自分たちの手で豊かな活動をつくる活動を展開）を運営する（株）ラグーナ出版の森越まや氏（精神科医）と川畑善博氏から活動の様子を聞いた。
その後は修道院聖堂で会議を開き、2026年の行事予定などについて調整を行い、ミサで締め括った。

紙芝居でマリア様を学ぶ

大熊小教区のクリスマス

昨年(2025年)のクリスマススイブのパーティーで、大熊教会(教会管理者 郡山健次郎司教)の教会学校では「小さい天使」という紙芝居をしました。

子ども5人、リーダー3人がリレー式にお話を読むというものです。お話はこの



紙芝居を披露してくれたスタッフ

でも、袋はもう空っぽです。「どうしよう!」と困った小さな天使はマリア様にお願いをしました。すると、マリア様は空の星をこっそり取って女の子にあげてくださいました。

帰る時間になって、小さな天使が天国の門の前でふと夜空を見上げると、あの星があったところにぽっかり穴が開いていることに気がつきました。小さな天使は「私のせいで星がなくなったのだから、これでは天国に帰れない」と大声で泣き出しました。

門番のペトロが出迎えましたが、泣き止まない天使に困ってしまいました。その話を聞いたマリア様は、ご自身の12の星がついている冠から光り輝く星を一つ取って「穴の開いたところに置いてごらん」と言って小さな天使に渡してくれました。すると小さな天使にやっと笑顔が戻りました。

これが「マリア様の

星・海の星・北極星」と呼ばれるようになり、あらゆる場所で人々を導く目印になりました。そして、小さな天使が女の子にあげた小さな星は後にみんなの願いを聞く流れ星となりました。

この日のゴミサで侍者デビューをしたばかりの小学2年生の男の子も自分の持ち場をしっかりと読むことができ、盛大な拍手をいただきました。

これからも、子供たちが小さい天使のように純粋な心で神様に奉仕していつてくれることを願うばかりです。(教会学校 担当者)

加治屋町教会でクリスマス教一致祈禱会

キリスト教一致祈禱週間(1月18日〜25日)の初日、日本キリスト教団加治屋町教会(松本敏之牧師)で恒例のキリスト教一致祈禱会があった。

この祈禱会は、分裂の悲しい歴史を持つキリスト教諸教会が「互いに理解し合い、キリストにある交わりを深く追求しよう」と始められたもので、鹿兒島ではカトリックとプロテスタントの教会が一年ごとに交代

して担当している。プロテスタントの担当だった今年の祈禱会(15時開始)には、60人ほどのキリスト教信者が集まり、松本牧師からのメッセージを聞き、共に一致のために祈り、交流した。来年の祈禱会はカトリックの担当。

短信

▼連合壮年会が清掃作業
鹿兒島カトリック連合壮年会では2月1日(日)午後、島津家の菩提寺だった福昌寺跡にある「キリスト墓(地)」(鹿兒島市池上町)の清掃を行い、ミサをささげた。清掃に協力したのは、同会担当のアン神父と10人の会員、これに3人の女性であった。



イグナチオの霊操 ③

紫原教会主任司祭 貴島丈弥

聖家族(1)

「博士たちの訪問」の観想以降、私の魂は観想状態に入りました。ほとんどの祈りの時間で、特にマリア様との親密な「対話」をすることができるようになりました。もちろん一番大切な「対話」はイエス様とでしたが、マリア様がずっと

支えてくれました。そして、もう一つの大きな出会いは、ヨセフ様との出会いです。

私が出会ったマリア様は、イエス様がまだ幼子、そして、少年の時期でありましたので、まだ10代の幼さの残っている印象でしたが、ヨセフ様は20代前半の

好青年でした。具体的にどの福音書の箇所でお会ったというわけではありませんが、必ずそこにいて優しい言葉で支えてくれました。

聖書に「ヨセフ様の言葉が一言もない」といった通り、多くは語りませんが、父親として親子を大切に守っていて、いつでも私を受け入れてくれました。

初めてイエス様と人格的な出会いをしたとき、おしやべりな人だと思った理

由がわかりました。それは、マリア様がとてもおしやべりで、イエス様は小さい時からいつもマリア様と一緒にいたので、それがうつつたのだと思います。おしやべりなマリア様の話をいつも優しい笑顔で聞いていたのがヨセフ様でした。

息子のちょっとした言動や成長を大喜びで伝えているマリア様の膝に座って母親を見ているイエス様、そ

来年3月に 知牧区設立百年

長崎教区の一部だった鹿兒島県と沖縄県が長崎から分かれたのは1927年(昭和2年)のこと。これは九州一円を管轄していた長崎教区のヨハネ・コンパス司教がローマ教皇庁に教区の分割を依頼してのことだった。

これを受けて当時のピオ11世教皇は、駐日教皇使節のジャルディーニ大司教の意見を聴取した上で1927年3月18日付で鹿兒島と沖縄を含む地域を「鹿兒島知牧区」とすることを公布した。そして鹿兒島知牧区をフランシスコ会に委託したのであった。

この知牧区設立の日を教区にとって大切な日として記念したい教区は、これまでの教区長、教区の動き、働きを回想するとともに、反省も含めて、本当の意味での教区の自立・成長のきっかけとしたいとしている。来年の記念の日に向けて教区では、記念事業や行事について検討が進められることになるが、教区報でも教区の歴史を紹介していきたいと思う。(広報部)

して、それを微笑みながら、笑いながら聞いているヨセフ様といった感じですよ。(続)



ラファエロ作「子羊の聖家族」

会と催し 3月

- 1日(日) 四旬節第2主日
- 3日(火) みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
- 4日(水) 中野アカデミー・教区本部・13時30分
- 5日(木) 田邊徹神父命日(2018年)
- 6日(金) 性虐待被害者のための祈りと償いの日
- 8日(日) 石神秀人終身助祭叙階記念(2011年)
- 8日(日) 四旬節第3主日
- 10日(火) 牧師神父の会・教区本部・14時
- 11日(水) 中野アカデミー・教区本部・13時30分
- 14日(土) 青年会・教区本部・18時
- 15日(日) 四旬節第4主日
- 17日(火) 日本の信徒発見の聖母
- 18日(水) 中野アカデミー・教区本部・13時30分
- 19日(木) 聖ヨセフ「祭」
- ▼サンタマリア神父、栃尾泰英神父、タム神父霊名(聖ヨセフ)
- ▼ゼローム神父命日(2003年)
- ▼牧山田一神父命日(2018年)
- ▼郡山健次郎司教叙階記念(1972年)
- ▼藤澤幾義神父叙階記念(1966年)
- ▼永山幸弘神父叙階記念(1968年)
- ▼宋診旭神父叙階記念(2013年)
- ▼鄭法鍾神父叙階記念(2013年)
- ▼小隈憲士神父叙階記念(1988年)
- ▼末吉卓也神父叙階記念(2003年)
- ▼石田望神父叙階記念(2003年)
- ▼池上利男終身助祭叙階記念(2018年)
- ▼四旬節第5主日
- ▼オリブの会・教区本部・14時
- ▼池上聖行終身助祭命日(2022年)
- ▼山口好信神父叙階記念(1991年)
- ▼神のお告げ
- ▼泉浩二神父叙階記念(1993年)
- ▼Y.C.C.旧福岡カトリック神学院・29日
- ▼コンタリーニ神父命日(1998年)
- ▼島田喜蔵神父命日(1948年)
- ▼ピンセント神父命日(2021年)
- ▼明松尊吉神父命日(1992年)
- ▼受難の主日(枝の主日)
- ▼美島春雄神父命日(2016年)
- ▼聖香油ミサ・カテドラル・10時30分
- ▼河野純徳神父命日(1989年)
- ▼【司教日程】1日ポルティエの御撰理修道会、3日大口明光学園、4日中野アカデミー、10日善き牧者会、11日中野アカデミー、16日聖マリア学園、18日中野アカデミー、25日聖マリア学園、26日善き牧者会、30日加世田聖母幼稚園、31日聖香油ミサ
- ▼祈りの意向
【教皇の意向】 武装解除と平和
【日本の教会】 性虐待被害者

四旬節・洗礼の準備と記念の季節

故・糸永真一司教のブログから

教皇による洗礼式

今年（2011年）の四旬節は3月9日の灰の水曜日から始まった。4月24日の復活の主日までの47日間、教会においては洗礼志願者たちの入信の準備とともに、すでに洗礼を受けている信者たちの洗礼の記念が行われる。四旬節は洗礼の準備と記念の季節である。

そこで今回は洗礼の意義を新たな観点から探ってみよう。ここに言う「新たな観点」とは、「福音宣教」との関連において洗礼の意義を問うという観点である。これを考えさせてくれるのは、教皇パウロ6世の使徒的勧告『福音宣教』の教えである。パウロ6世は言う。

「教会にとつて福音宣教とは、良い知らせ」を人類のすべての階層にもたらし、「私はすべてを新しくする」（黙示録21・5）とあるように、「人類を内部から変化させ、新しくする」という意味を持つています」（18項）。

「ですから、福音宣教の目的は、明らかに、この内的変化であります」（同上）。

この教えはまことに重大である。神の御子が人間となつてこの世にいられたのは、個人の救いのためではなく、人類全体の救いのためであるという意味になる。換言すれば、世界を神の国に変えるために来られたという意味である。これが、いわゆる「神の福音」である。

同勧告は続けて言う。「もし、これを一つの文章で表現するならば、『教会が人々を回心させようと努めるとき、教会は福音宣教をしている』と言えるでしょう。すなわち教会が宣べ伝えるメッセージの神聖な力によつて、人々の個人的な、また集団的な良心、彼らが従事する活動、彼らの生活や具体的環境を変えよ」と努めるときです」（18項）。

さらに次の項で言う。「教会にとつて福音宣教とは、ただ単に宣教の地理的領域を拡大して、より多くの人々に布教することだけではなく、神のみ言葉と救いの計画に背く人間の判断基準、価値観、関心のまこと、思想傾向、観念の源、生活様式などに福音の力によつて影響を及ぼし、それらをいわば転倒させることでもあります」（19項）。

要するに、教会の本質的な使命である福音宣教の目的は、現世的な関心事に執着している人類を、全面的

に神に回心させることにはかならない。従つて、教会の布教活動によつて洗礼（註1）を受け、教会に合体された信者たちは、自動的に教会の宣教活動に合流させられるのである。そこで、教皇は言われる。

「しかし、まず最初に『洗礼を受け、福音にしたがった生き方によつて新たにされた』（ローマ6・4ほか）新しい人々がいなければ、新しい人類は生まれません」（18項）。

つまり、洗礼を受けて新たにされたキリスト者たちは、個人の救いのためではなく、人類を新たにする使命のために選ばれた人々であるという意味になる。こうして、洗礼の秘跡自体が福音宣教のためであるという意味になる。以下、省略（2011年3月）

記事を伝えるための写真 全国教区広報担当者会議

1月19日（月）と20日（火）の2日間にわたり、東京の日本カトリック会館にて全国各教区の広報担当者やカトリック中央協議会の広報部の職員合わせて30人が集まり、研修と分かち合いを行った。鹿児島からは広報部長の霧島彬神父が



酒井司教による講話を聞く

参加した。初日の研修は中央協専属フォトグラファー峰脇英樹氏指導の下、「記事を伝える写真とは」というテーマで、特にスマートフォンを使った写真撮影について座学と実習を行った。2日目は広報委員会担当

司教の酒井俊弘司教（大阪高松大司教区）の講話とそれに基づく分かち合いにより、教会広報のためのアイデアや工夫を共有した。そして最後は広報委員長の勝谷太治司教（札幌司教区）の主司式で派遣のミサをささげて終了となった。

カリタスジャパン四旬節黙想会

=3月14日（土）・15日（日）=

場所：ザビエル教会主聖堂
講師：森山信三司教（大分教区・カリタスジャパン）
テーマ：教皇様の四旬節メッセージのもとに

14日（土）	15:00	導入、講話①
	16:00	（休憩後）聖体顕示 ゆるしの秘跡
15日（日）	17:15	聖体賛美式
	17:30	終了
15日（日）	9:00	講話②
	10:00	ゆるしの秘跡
	11:00	ミサ（四旬節第4主日）
	12:00	終了

カリタスジャパン・鹿児島教区共催

「教会にとつて福音宣教とは、良い知らせ」を人類のすべての階層にもたらし、「私はすべてを新しくする」（黙示録21・5）とあるように、「人類を内部から変化させ、新しくする」という意味を持つています」（18項）。

「もし、これを一つの文章で表現するならば、『教会が人々を回心させようと努めるとき、教会は福音宣教をしている』と言えるでしょう。すなわち教会が宣べ伝えるメッセージの神聖な力によつて、人々の個人的な、また集団的な良心、彼らが従事する活動、彼らの生活や具体的環境を変えよ」と努めるときです」（18項）。



要理

私が小学校3年生の頃、「同じ量の砂糖と塩を水に混ぜたらどうなるのか」という素朴な疑問が頭をよぎり、衝動を抑えきれず遂に試してみました。結果はしょっぱい水となりました。

当時、道徳の授業で人間の心には善と悪があり、良い心が勝つと良いことが出来るが悪い心が勝つと悪いことをしてしまうと習いました。

私はこの実験結果から人間の心の中にあなたも善と悪がバランスよく存在しているという警えは間違っていることと確信しました。良いことをするために

善と悪の判断基準とは？

何か、またそれは何処にあるのかということが気になり始めたのです。

善悪が判断される同じ次元に基準があるのなら、それは絶対の基準とはならないはず。確かに善悪二元論は非常に分かり易いものです。しかし事の善悪が人間の判断によるとしたらそ

れは非常に恐ろしいものです。

なぜならそれは時代や文化が作りあげる相対的なものだからです。

であれば人間を越えたところに支点のようなもの求めなければならぬのでは…と思つたのです。

道徳とは普遍的なものでなければ「道徳」とは言えません。であれば真の道徳、また倫理とは普遍的な善性に基づくべきものです。

であればカトリックの教えに基づくものこそ人の道、即ち、道徳であり倫理であると言えないでしょうか。



3月6日は

性虐待被害者のための 祈りと償いの日

2016年に教皇フランシスコは、子どもに対して教会のメンバーが犯した罪の責任についてしっかり意識できるよう神により頼む日として「性虐待被害者のための祈りと償いの日」を設けることを全世界の司教団に通達しました。

これを受けて日本の教会は、四旬節第2金曜日をこの日に定め、祈りと償いの、そして被害者の痛みを学ぶ機会として、教会のメンバーが犯した罪を公に認め、共同体として神のゆるしを願い、被害者とその家族のために毎年祈りをささげます。